報告

中国における青少年への環境教育の実践

周 又紅・韓 静

北京市西城区青少年科技馆 北京市朝阳区青少年活动中心

Youth Environmental Education Practice in China

Youhong ZHOU*, Jin HAN**

*Beijing Xicheng District Youth Science and Technology Centre

**Beijing Chaoyang District Youth and Children Activity Center

(受理日2008年6月13日)

I はじめに

中国は地域が広く発展も不均衡である。地域が変われば環境の状況も異なり、経済発展の状況も、教育の発展の状況も異なっている。それゆえ、青少年への環境教育の状況は地方によって大きな差異がある。

しかし、環境保護は中国の基本的国策の一つであり、また中国における環境問題が緊迫度を増していること、および大衆の社会公共物に対する責任感が全体的に向上していることによって、国家であるか地方であるか、民間であるか個人であるかを問わず、環境保護活動と環境教育は活発化しており、その形式や内容は多様であり豊富である。

II 国家・地方と民間

1. 国家レベル

国家の角度からは、以下の二つの事柄の影響が重大である。

(1) 『中小学環境教育実施指南』の公布と実施

中国教育部基礎教育課は、2003年に全国の小中学校に対して、『中小学環境教育実施指南』（以下、『実施指南』）を公布しており、現在進行中の中国第八次基礎教育課程改革の中で、教育部は環境教育を正式に小中学校の課程に導入することを決定した。その総合的な目標は「生徒（以下、児童を含む）が家庭・社区・国家・全世界が直面す

る環境問題へ注目し、個人・社会・自然の間における相互依存の関係を正確に認識するよう導く。生徒が人と環境の共生に必要な知識と技能を獲得し、環境に有益な情感・態度と価値観を養うよう支援する。生徒の継続的展開が可能な方針と行動に向かって積極的に関与し、社会的実践能力と責任感を有する公民となるよう奨励する」ことである。同時に、更に具体的な目標を定めている。また、異なる年齢階層に分けて、情感・態度と価値観・過程と方法・知識と能力（自然生態・社会生活・経済と技術・関与と方針決定を含む）などの方面から学習する内容が制定され、あわせて実施に関する提案がなされた。明らかに、青少年の環境教育を国家は重視している。なお、『実施指南』については、黄宇・諏訪哲郎（2007）で紹介されているので、詳細はそちらを参照してほしい。

(2) 緑色学校の創建

国家環保総局と国家教育部が共同で発表し、国家環境保護総局宣伝教育中心が実施の責任を負う全国緑色学校の創建に関する活動が、2000年より全国で全面的に推進されるようになった。緑色学校は環境管理・課程・活動・教師の養成訓練・海外交流などの総体的活動を学校に組み入れることを求め、全国各省・市の小中学校環境教育の展開を推し進めることに深い影響を与えた。現在、中国では各レベルの緑色学校がすでに16,933校創設されている。

問い合わせ先 周 又紅 E-mail: zhouyouhong@sina.com
韓 静 E-mail: han-jj2005@126.com

2. 地方レベル

『実施指南』および緑色学校の推進以前にも、一部の地域では地方色を具えた環境教育活動が展開されていた。たとえば、北京環境保護宣伝教育中心が推進した環境演劇活動、北京市教育委員会と環境保護局が共同組織した環境保護に関する論文募集と講演などの課外活動がある。

北京環境保護宣伝教育中心が行っていた青少年環境演劇活動は、青少年と教師たちが生活における実際の環境保護事例、あるいは自分が実行したことの環境保護行動に基づいて小規模な現代劇、音楽劇、パントマイムなどに仕立てたものである。生徒たちにその脚本に基づいて劇中の異なる役柄を演じさせることによって、社会生活における異なる立場の人間、あるいは異なる労働をする人間が環境問題に対してどのように考えているのか、どのように行動しているのか、どのように行動すべきなのか、どのような行為が矯正されるべきものであるのかを感じ取らせた。同時にまた、立場などの異なる人間が環境問題を共に討論・解決することの難しさや、努力して共通認識に到達し、共に協力することがどんなに重要であるのかを感じ取らせた。また、上演中に観衆の共鳴を喚起し、良好な公衆宣伝教育の役割を果たすこともあった。北京柳芳里小学校の生徒は、かつて同級生が壩河で行った環境保護活動を音楽劇に作り替え、自分の学校やその他の多くの学校の同級生に上演して見せて、熱狂的な歓迎を受けた。また、それがきっかけとなって多くの同級生が啓発され、学校周辺の環境保護の行動を起こすようになった。

環境教育の推進は所が変われば状況も異なるもので、『実施指南』の公布後、経済発展の状況が比較的良好な一部の中都市・大都市では、『実施指南』が求めているレベルの環境教育が有効に実施され、さらに一部の地域では大学・専門学校などと協力して関係する教材を開発したりしている。

しかし、環境教育の実行状況があまり良好でない地域、特に貧困地域では、『実施指南』が求めている様々な活動の実行はなかなか困難である。

おおむね、教師の大幅な不足、教育経費の不足、環境教育資源の欠乏などの原因によって実行が困難な状況に陥っている。これらの地域では主要教科を指導する教師を確保することは可能であっても、こうした環境教育を成し遂げることは容易ではない。

教師不足の原因には主に二つの理由がある。一つ目は教師の絶対数が不足していること、二つ目は教師を準備することはできるが、環境教育の研修を受けていないかそれが不足しており、任に堪えないことである。

地域レベルの教員研修は一般的には主に都市部を中心に行われており、農村学校の教師がそのような研修に参加できる機会は非常に少ない。その上、教員研修の内容は基本的に主要教科が中心で、環境教育の研修はその中へ組み込まれる程度で、農村学校の教師のための環境教育分野に焦点を当てた研修は少ない。農村では、一人の教師が往々にして数種類の教科科目を複数の学年にわたって指導している。多くの農村の学校ではクラスには70、80名もの生徒がいる。もし、これらの教師に有効な環境教育の研修を受けさせ、これらの教師の心中に環境教育の理念を深く浸透させ、彼らを通じて農村に適合した環境教育の方法がうまく適用されるならば、一人の教師が数十名や数百名の生徒の環境意識を啓発し、そうした農村の環境危機地域の青少年に非常に大きな、積極的な影響をもたらすはずである。

教育経費の不足は主に次の事柄に表れている。一つ目は基本的な教育の需要を満足させることはできても、教師を養成訓練する余分な経費がない、あるいは教師が生徒の課外教育活動をサポートする余分な経費がないことである。二つ目は良好な教育設備、たとえば実験設備などが無く、教科書にある実験などをやり遂げる手段が無いことである。自然観察と実験に用いる設備があるべきであることは言うまでもない。三つ目は教師の待遇が低いため、教師を学校に留め置くことができず、流動性が大きいことである。貧困地域の教師は教育任務を確実に実行するのと同時に、休暇あるいは課外の時間にその他の労働をして経済的に

家庭生活を維持しなければならず、生活の負担は重い。その重荷に耐えられず、教師の仕事を辞め、都市へ出稼ぎにいく教師はかなり多い。

現在、国家は農村教師の待遇を向上させ、基本賃金を保障する努力をしているが、数百元の基本賃金では最も基本的な生活を維持することができただけであって、多数の農村教師が持つ家庭生活への後顧の憂い、例えば、医療・住居・子供の進学・老人扶養などを根本的に解決する術はない。したがって、政府が更に有効的な保障の仕組みと政策を制定することが必要である。

環境教育資源の欠乏は、主に関連書籍の欠乏である。とりわけ現地における実際の生活と環境の状況を結び付けた環境教育教材の欠乏が著しい。映像資料の放映、実験活動を行う設備と資料なども欠けている。最も欠けているものは環境教育の知識と方法である。

3. 民間レベル

現在、多くの民間組織が青少年に対する環境教育活動を推進している。こうした活動には都市に対するもの、および農村に対するものがある。民間組織による環境教育活動は、学校教育における環境教育の補足的な役割を果たしており、場合によっては、空白の補填の役割を果たしていることもある。同時にまた学校における環境教育の指導者のために新たな理念と方法をもたらしている。たとえば、「自然の友」が推進している緑色希望活動、地域美化活動、環境教育巡回教育車など、「北京天下溪教育咨詢中心」が推進している環境教育郷土教材の開発プロジェクト、「北京緑十字」が推進している環境保護模範部屋活動、「北京富平学校環境発展研究所」のリサイクルエネルギー教材の開発・普及プロジェクト、「雲南緑色流域」の生態史活動と郷土教材の開発・普及活動などである。

ただし、環境教育分野における中国本土の民間団体の活動は依然として模索の段階に止まっているものが多く、中国の環境教育全体の流れに決定的な影響を与えるレベルには達していない。

「自然の友」や「北京天下溪教育咨詢中心」が行っている活動には、新鮮な形式、新しい教育

理念や方法とともに豊かな文化精神が含まれている。詳細は「自然の友」のホームページ (www.fon.org.cn) や「北京天下溪教育咨詢中心」のホームページ (www.brooks.org.cn) などを参照していただきたい。

以下では、「北京緑之行環境文化中心」(以下、「緑之行」) が推し進めている「中日韓三カ国環境教育教師民間交流活動(日中韓の三カ国における環境教育の教師の民間交流活動)」を例として詳しく紹介する。

「緑之行」は非営利の民間組織であり、青少年と大衆向けの環境教育に熱心な教師によって呼び掛けられ成立したもので、各種の形式で青少年と大衆向けの環境教育を推進している。また、青少年向けの環境教育教材をすでに数冊編集・刊行し、それを活用して教師の環境教育研修を推し進め、青少年の環境保護サマーキャンプ活動を組織している。

その特色ある活動の一つである「中日韓三カ国環境教育教師民間交流活動」はすでに10年間継続している。それは1998年の日中環境教育体験型学習教師研修に起源を発する。その後、98年当時の研修に参加した教師が中心となり、それぞれ北京・大連・襄樊・通遼・重慶・河南・武漢などの地ですでに2000人あまりの教師を対象に環境教育研修を行っている。これらの研修会を通して、体験型の学習方法と探究型の学習方法(学習者が主体となって一定の課題について調査・実験・分析・総括・発表などを行う学習方法)を普及させ、教師の環境教育実施能力を向上させている。

2001年には、中国の教師の代表が日中環境教育協力会の援助のもと日本を訪問して環境教育ワークショップに参加し、日本で会議に参加していた韓国の教員との交流が始まった。これより日中韓の三カ国における環境教育の教師の民間交流活動に拡大した。日中韓の三カ国民間交流活動の主なものには次のようなものがある。

(1) 中日韓環境教育研討会¹⁾。中日韓環境教育研討会は日中韓の三カ国における環境教育の教師の民間交流・研究の中心となる活動であり、2001

年より一年に一度、日本・韓国・中国持ち回りの主催のもと、すでに7回開催されている。交流活動は中国の北京緑之行環境文化センター、日本の日中韓環境教育協力会および韓国の慶尚南道を中心とする環境と生命を守る教師の会によって共同企画されており、それぞれの国の民間組織と、現地の政府あるいは本国のその他の民間組織の支援の下で開催されているものである。会議参加者には、行政関係者、大学教授、NGO代表、小中学校教師および関連領域の専門家と学者が含まれる。環境教育に関する理念や現状についての討論、三カ国における環境教育の実践例の実演・紹介、環境教育方法の交流、環境状況の現地考察、環境教育施設の参観、日中韓青少年環境教育教材の編集作成、青少年湿地環境教育サマーキャンプなどを主に実施している。

(2) 『中日韓青少年環境教育活動案例集』²⁾の編集・発行と研修。2002年に北京で開催された第二回中日韓環境教育研討会時に、三カ国の教師が『中日韓青少年環境教育活動案例集』を共同で開発することを決定し、三年間の努力を経て、2005年にこの教材は日中韓三カ国の言語で中国・日本・韓国において出版され、あわせて三カ国で普及使用され始めた。中国語版はさらに北京科普基金の資金援助を得て正式に出版・市販された。この教材は体験型の学習方式を中心としており、同時に各国の特色ある環境教育の活動例を集め、さらに三カ国の青少年が共同で推進する環境教育活動を盛り込んでいる。

「緑之行」はこの『中日韓青少年環境教育活動案例集』を普及させるために、すでに襄樊・通遼・大連などの各地で環境教育の教師研修会を開催し、好評を得ている。また、日中韓三カ国の教師はそれぞれの国における青少年の実際の環境保護行動に基づいて、青少年環境保護漫画集を編集作成し、韓国と日本ではすでに出版され、中国語版も今年出版される予定である。

目下、三カ国の教師は引き続き協力して、『中日韓青少年環境教育活動案例集』教師用指導書を共同で編集している。そこでは三カ国の青少年に他の国家の優れた自然や文化、伝統をより深く理

解させる内容を盛り込む予定である。2007年末には、「緑之行」は中国湖北省洪湖市教委・洪湖湿地管理局・WWF武漢辦事処と協力して、洪湖市の教師を対象に環境教育研修会を実施し、歓迎された。

(3) 青少年環境教育サマーキャンプ。2005年に北京で開催された第五回日中韓環境教育研討会で、三カ国の教師が、日中韓青少年環境保護サマーキャンプを研討会と同時に開催することを協議決定した。2005年、大連で第一回中日韓青少年環境保護サマーキャンプを開催し、三カ国の青少年が合計40名参加し、あわせて共同出版した『中日韓青少年環境教育活動案例集』中の活動を三カ国の教師がサマーキャンプで実践して見せた。同時に、その内容において、主催国の特色ある環境教育活動、および三カ国の伝統文化を反映した手作り制作活動を融合させた。なお、毎回サマーキャンプ終了時、三カ国の青少年は、それぞれ本国の言語で、彼らが共同で立案した環境保護宣言を読み上げた。この活動は三カ国における青少年の自然に対する理解と熱愛を促し、その交流と理解を促進させた。

Ⅲ 主要活動の内容と形式

1. 環境教育活動の内容

中国における環境教育の内容には、基本知識、環境保護理念、環境保護技能、生活中的環境保護問題を解決する方法、自然生態保護と生態倫理、リサイクルエネルギーなどが含まれる。これらの内容は、単純な知識の伝授から徐々に変化しており、感情の育成を前提とし、知識の理解・掌握を基礎として環境問題を発見し、さらにこれを解決する基本的な方式と方法を習得し、最終的には、その価値観と生活行為を改変するという目標に到達することを目指している。それに伴って内容に対する興味や、多様性および実際の生活との結び付きなどがますます重視されるようになっていく。同時に、内容の選択においても、身の回りの環境問題に立脚するほか、地域全体・全国、大きくは世界の環境変化を含んだ内容を選択している。これらの内容と個人の生活を連携させること

で、受け取り手に個人の観念と行為が全体に与える影響や、全体の変化が個人に与える影響を理解させ、そのことから環境問題が発生する複雑な原因や問題を解決する困難さ、各人がなすこと、またなさねばならない改変と努力を理解させる。この点は自然生態保護と生態倫理の分野において顕著である。たとえば、マホガニー家具の問題は、熱帯雨林の現状と保護、国家間の貿易、時代の気風や生活の質を向上させることに対する理解と論議、個人の生活観念の改変などといった内容にも及ぶ。

2. 環境教育活動の形式

学校を含む公的機関が推進している環境教育にも、民間団体が展開している環境教育にも、主に以下のような形式がある。

(1) 講座

主に環境保護問題専門家、政府・研究機関と民間の環境保護労働者、教師等による講義である。その中では、大気汚染・水汚染・食品汚染・森林面積の減少・環境保護人物の物語が中学生の最も関心のある問題となっている。講座においては、時に大気汚染・水汚染などの模擬実験を演じる場合もある。ある学校では、高学年の生徒が低学年の生徒へ講義をする活動を行っている。

(2) 授業

中国では、発展が比較的速い大都市の小中学校はすでに環境保護の科目を開設しており、農村の学校においてもまた学校基本課程（校本課程）の時間を利用して郷土環境教育の科目を開設したりしている。とりわけこの数年で、各種の環境保護教材が出版され、それらが学校の授業でも使用されるようになってきている。たとえば、「緑之行」の会員によって編集された『北京的环境』、『衣食住行与環保』、『環境保護青少年読本』、『環境保護青少年連環画読本』、『環境教育』、『高中環境教育読本』、『環境保護研究性学習』などがある。北京可持続発展教育協会によって編集された『北京可持続発展教育教材』、北京天下溪教育咨詢中心が五つの湿地保護区周辺の学校のために編集した『与鶴共舞（鶴とともに舞う）』・『紫龍』などの湿地郷土環境教育教材、北京環境与発展研究所が

専門家と教師を組織して編集した『可再生能源』などもある。これらの団体は、自ら開発した教材を使って授業を行うとともに、関連する教員研修やワークショップを展開したりしている。

(3) 各種コンテスト

環境保護部門・教育部門・NGO組織などが各地域で様々な形式の環境保護コンテストを組織している。コンテストによっては地域的なものだけでなく、たとえば、緑色学校環境保護教案和教学実録評比（緑色学校の環境保護指導案と教育実習の比較評定）、青少年環境保護徵文比賽（青少年環境保護作文コンテスト）のように全国的なものもある。

このようなコンテストには、環境保護の基礎知識を主題とした知識コンテスト、生徒の環境保護実践活動を取り上げた講演、身の回りで起こった実際の環境保護の物語を自ら編集したり環境保護SF物語を語るコンテスト、環境保護を主題とした作文コンテスト、環境保護の詩の朗読コンテスト、環境保護を主題とした広告画・漫画・連続画などの絵画コンテストなどがある。

(4) 環境問題に対する科学研究と発明制作活動

中国には全国青少年科技創新大賽という青少年科学技術方面の重要なコンテストがある。また、北京市には北京市中小學生金鵬科技論壇活動という重要な科学技術活動がある。これらの活動は生徒が科学研究と発明創造活動を推し進めるよう奨励することを主な目的としている。

中には環境保護と関連する選定テーマを選択し、科学研究と発明創造を推し進める多くの生徒がいる。たとえば、北京西城区の青少年科学技術館で環境保護について学んでいる生徒は、人工的な水景観を作っていたガラスの表面にトンボが産卵しているのを発見して疑問を抱き、そのトンボの生存を心配して研究を進め、原因を探り出した。さらには、人工的な水景観を作る場合、理に合ったものを作るべきであるという建議を提出し、都市建設を進める過程で生物の生存のための空間を確保するよう求めた。この研究論文は第八回北京市中小學生金鵬科技論壇において一等賞を獲得し、フォーラムにおいて全市の学生・教師と

意見交換を行った。

生徒の課題研究には主に以下のようなタイプがある。

●社会調査：質問・アンケート・個人訪問などの調査方法で、生徒はある場所の環境問題の資料とデータを収集し、整理・資料分析の基礎の上で合理的な建議を提出する。

●自然観察と実験研究：生徒は発見した環境問題に対して、すでに身につけている方法で野外観察・実験・データ分析を進め、特定の環境問題に対して深く追及する。このような研究に基づいて生徒は自分の独創的・合理的な見解あるいは構想を出して、環境保護科学研究論文を書く。このような活動を通して教師は生徒の綿密な科学研究態度と創造能力を養成し、生徒が実際の環境保護活動に参加するのを促している。たとえば、ツバメの生活状況の研究、有機野菜と普通の野菜の硝酸塩の測定、河川の水汚染の調査、自動車排気ガスの植物に対する影響の研究などがある。

●発明創造：生徒は環境保護に関連した発明創造を進める。たとえば、家庭の節水蛇口の発明、家庭排水の循環使用器具の発明など。

(5) 青少年フォーラム

主に青少年が中心となって環境保護問題に関する交流と討論を繰り広げるものである。たとえば、論文討論会では生徒が言語・文字・図表などを使って、科学的言語と確かなデータに基づいて、聴衆に自分の科学研究の成果を示し、聴衆の質問を受けて、関連する問題を討論するものである。北京市中小学生金鵬科技論壇活動の最後に開いたフォーラムはまさにこのような活動であり、生徒・教師・家族に好評であった。

(6) 漫画作品

漫画作品は青少年に愛好されているため、環境保護と関連する漫画作品は中国でもだんだんと増えてきている。日中韓三カ国の教師がそれぞれの国の青少年が行った実際の環境保護行動に基づく物語を収集して編集し、韓国の漫画家が漫画を描いた『環境と生命をはぐくむ日中韓の子どもたち』の中国語版は2008年内に出版するよう準備を進めている。

(7) 参観・調査活動とサマーキャンプ

この活動の大部分は、青少年を組織して、環境保護科学研究機関を参観したり、環境保護に関する展示を見学したり、緑色学校の環境保護活動を見習ったり、ゴミ処理場を見学したりすることなどである。ある地方では生徒を引率して川に沿って上流から下流へと調査活動をしたことがある。生徒の夏休み中の生活を豊かなものとするために、多くの地方と機関が環境保護サマーキャンプ、たとえば湿地環境保護サマーキャンプ、生態観察サマーキャンプなどを組織したりしている。

(8) 演芸会

中国における環境教育の中には、芸術という手法で繰り広げられる活動がある。詩歌の創作、絵画などのほか、演芸会もまた比較的多いものである。これらの演芸会は一般に都市における環境関連の祝日あるいは記念日の主題と結び付け行われており、ダンス・歌曲・詩の朗読・楽器演奏など多様な形式のものがある。たとえば、改編されてダンス化されたチベットカモシカ保護の物語は、しばしばこのような演芸会上演されて、歓迎されている。

(9) 環境演劇

環境演劇という手法は1990年代に中国に伝来した後、だんだんと環境教育者によって受け入れられるようになっていく。北京では、かつて専門の環境演劇のコンテストが開催されたことがある。シナリオのほとんどは、教師と生徒が自分たちの実生活で出会った事件あるいは生徒の美しい願いに基づいて作られ、生徒自身によって演じられるのである。創作や演技における役割の違いによって、環境問題を引き起こす複雑な原因を異なる角度から理解したり、また、環境問題を解決するには各方面の相互理解と共同の努力が必要であることを体験したりすることができる。生徒たち自身の努力や多くの人々の寄付によって、学校近くの川の周辺がゴミだらけの状態からきれいに変わる過程を音楽劇に編集して実演した。この活動を通して、生徒たち自身が学んだだけでなく、観衆もまた感化されていった。このような教育手法は双方向で学び合う作用をすることが多い。

(10) 環境保護行動

さまざまな環境保護行動が各地で展開されている。たとえば、廃棄物で芸術作品の制作を行い、展示宣伝したり、植樹栽培・芝生養生・ゴミ拾いをしたりする。丹江口の北京への引水に感謝し、生徒を組織して南水北調の水源・丹江口に行き植樹活動を行う。「環境の日」・「地球の日」・「愛鳥週間」などをテーマにした宣伝資料を配布する。校内の掲示板および壁新聞を使って宣伝を繰り返し広げる。地域住民の生活と関連する環境保護実験－喫煙の健康への被害、洗剤と水の富栄養化、水汚染の簡易監視測定、野菜の農薬・化学肥料の簡易検査、廃棄物による環境保護電池の制作、太陽エネルギーの実演実験と太陽エネルギーフードの制作、食品健康と栄養などといったもの－を実演する。さらには、生徒に身の回りの環境問題に対する改善プランを出させ、少額の資金を与えてその実施を助け、環境問題を本当に解決させて、生徒を正真正銘の環境改善の行動に参加させる。自然の友が推し進める「地域美化活動」はまさにこのような活動であり、良好な効果をあげている。

Ⅳ おわりに

総体的に見て、中国はまさに今、有益な環境教育の実践を進めようとしており、また表面的な華やかさを追求することから内心に深く入り込み、観念と行動を改めることへと変化している。この過程において、多くの困難と困惑に出会い、場合によっては長い回り道をしてきたが、いつも人々に新たな希望と、継続して行う信念と勇気を与えてきた。その結果として、ますます多くの青少年が環境保護の列に加わるようになり、ますます多くの人が、持続的発展が可能であってこそ中国の活路が見いだせることを意識し、行動を始めるようになってきている。今後も継続して努力していきたいと思っている。

注

- 1) 日本での名称は「東アジア環境教育ワークショップ」。

- 2) 日本での書名は『日中韓がいっしょに学ぶ環境』。

参考文献

- 黄宇・諏訪哲郎（2007）「中国の《中小学環境教育実施指南》の背景、内容と展望」『環境教育』第17巻第2号
- 中国教育部基礎教育課（2003）『中小学環境教育実施指南』、
- 中日韓共同編纂環境教育教本編集委員会（2004）『中日韓青少年環境教育活動案例集』、
- 韓中日環境漫画本開発チーム（2005）『環境と生命をはぐくむ日中韓の子ともたち』（韓国語）、韓国環境部

写真1 環境教育の実験に見入る子供たち

写真2 中日韓環境教育研究会